

## IV 平成29年度普通会計の決算状況

普通会計とは、地方公共団体の財政状況の把握や財政比較等のため、統計上統一的に用いられる会計単位で、公営事業会計以外の会計を一つの会計としてまとめたものです。

算出にあたっては、一般会計と公営事業会計に属さない特別会計を合算しますが、単純に合計するだけでは会計間の重複(相互間または他会計とのやりとり)により財政規模が実際より大きくなるため、この重複部分を控除して正味の決算額(純計決算額)に調整しています。

本市では、一般会計及び公共用地造成事業会計を普通会計として、上記の調整を行い、純計決算額を算出しています。

### 1 普通会計決算規模及び決算収支

平成29年度の普通会計決算額は、歳入666億8159万4千円、歳出652億350万9千円となり、前年度に比べ、歳入6億4338万8千円(伸率+1.0%)、歳出7億731万9千円(伸率+1.1%)がそれぞれ増加しました。

この結果、歳入歳出差引額(形式収支)は、14億7808万5千円で、この形式収支から翌年度へ繰り越すべき財源1億1839万6千円を控除した実質収支は、13億5968万9千円の黒字となりました。

なお、実質収支額は標準財政規模の3~5%程度が望ましいとされていますが、本市は3.7%であったことから、概ね良好な財政運営ができたと考えており、剰余金は、次年度以降の財源調整に活用し、財政運営の持続性を図っていきます。

また、単年度収支は、2億3935万1千円と増加し、これに含まれる実質的な黒字要素(財政調整基金積立金、市債繰上償還金)や赤字要素(財政調整基金取崩額)が歳入歳出面に措置されなかった場合の実質単年度収支は、5億2248万5千円となっています。

第9表 普通会計決算収支の状況

(単位:千円)

区 分		平成29年度 a	平成28年度 b	比 較	
				a-b	a/b×100
歳 入 総 額	A	66,681,594	66,038,206	643,388	101.0%
歳 出 総 額	B	65,203,509	64,496,190	707,319	101.1%
歳入歳出差引額	(A-B) C	1,478,085	1,542,016	△63,931	95.9%
翌年度へ繰り越すべき財源	D	118,396	421,678	△303,282	28.1%
実 質 収 支	(C-D) E	1,359,689	1,120,338	239,351	121.4%
単年度収支	(E-前年度E) F	239,351	△463,412	702,763	-
財政調整基金積立金	G	738,209	1,024,319	△286,110	72.1%
〃 取崩額	H	730,000	850,000	△120,000	85.9%
市債繰上償還金	I	274,925	222,460	52,465	123.6%
実質単年度収支	(F+G-H+I) J	522,485	△66,633	589,118	-